

北公民館

公民館っておもしろい

岡田小学校三年生が訪問

「公民館って何するところ？」と、5月16日（木）、岡田小学校三年生の皆さんが、社会科学の学習で北公民館へきてくさいました。

北公民館には、1階に児童館と老人憩いの部屋があり、2階に公民館関係の部屋があります。子どもたちには、これがすぐには理解しにくかったようですが、各部屋を見て回るうちに、だんだんわかってきたようです。中にはサークルの方々が活動している部屋もあり、その様子を見学させてもらっていました。

北公民館へは、1歳の子どもから90歳代の方まで来館さ



れ、とてもにぎやかです。何回か来たことのある子どもも多かったのですが、あらためて見学して回ると、新しい発見がたくさんあったようです。見学のあと、子どもたちからいろいろな質問が出ました。

・部屋はどんなことに使うのですか。

・お休みはいつですか。
（公民館は土・日曜日、児童館は月曜日がお休みです。）

・使うのは何時までですか。
（児童館は5時までですが、公民館は夜も使います。）

このほかに、「公民館は何のためにあるのですか。」「公民館がなかったらどんなことが困るのですか。」という質問が出ました。

一瞬、「エッ」と思いましたが、「とても大事なことを子どもたちは考えているんだな。」と思いました。大人も「わかっていること」と思わず、もう一度考えてみたいと思います。後日、子どもたちからお礼状をいただきました。いくつ



▲公民館って何するところですか？

かご紹介いたします。

○見学をさせていただきました。2階にもいろいろなへやがあつてびっくりしました。ここもがいつぱいいくるけれどがんばってください。

○上のたたみのへやと下のたたみのへやがつかい道でちがつていておもしろかったです。

○図書館の本がたくさんあるのでビックリしました。しかも買うなんてまたビックリ。

○夜にもべつの人があるんだね。また、あそびにいくから、おしごとがんばつてね。○つとめている人がとても元気で、けんこうというかんじでとてもよかったです。

補導センターだより

みんなちがつてみんないい

松前町青少年補導センター所長 村上朋子

私と小鳥と鈴と
私が両手を広げても、お空はちつとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を速くは走れない。

私がからだをゆすつても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ
鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがつて、みんないい。

「私は小鳥に負けることはあるけれども、小鳥に負けないうところがあるよ。鈴のよいうなきれいな音は出せないけれども、私は鈴よりたくさん音（歌）を知っているよ。だから、鈴には鈴、小鳥には小鳥のいいところがあるけれども、私には私のいいところがあるよ」と言っています。

悪いところがあるかもしれないが、劣るところがあるかもしれないが、みんないいところをもっているのです。

「みんなちがつて、みんな

いい。」なんてすてきな言葉でしょう。あなたはあなたでいいのです。一人ひとりがみんな光り輝いている大切な存在なのです。丸ごと認めて、傷つけないということです。そこには愛があります。みんなちがつて、みんないい、大きいもの小さいもの、力の強いもの弱いもの、有名なもの無名なもの、有用なもの無用なもの、見えるもの見えないもの、地球という星に存在するすべてが尊いのです。

この詩は、童謡詩人金子みすゞさんの詩です。彼女は、視点を変えることの大切さを教えてくれました。視点を変えることで、今まで気づかなかったことに気づき、見えなかったものを見、聞こえなかったものを感じることができるようになります。

先入観や思い込みなどのこだわりを捨て、日々新しい目で、心で、プラス思考で生活し、子どもやまわりの人たちに接していきたいと考えているこのごろです。